

園芸タイムリー情報

《6月上・中旬版》

平成27年6月2日発行 第2号
 上川農業改良普及センター
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm


全作物共通

- 晴天時は葉からの蒸散が活発になります。このような場合、土壌水分が不足していると、しおれたり生長点などが枯れることがあります。かん水は根域全体にいきわたるように行い、かん水ムラがないか確認しましょう。
- ハウス内が高温になる場合、換気や遮光資材を活用し、生育適温を維持しましょう。
- 曇天や雨天の場合はハウス内の湿度を低下させるため、状況に応じて換気を行いましょう。
- 今後、アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫が増加します。ほ場観察を行い適期防除に努めましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	ピーマン・ししとう・トマト	
病虫害生理障害名	生長点付近に多発したアブラムシ類	
アブラムシ類		
発生状況	少～中発生	
発生時期	5月中旬～	
発生状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 生長点付近や葉裏に集中して発生している。 大小の個体が見られ、徐々に拡散している。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多発すると防除が難しくなる場合があるので、ほ場観察を実施し初発を見逃さないようにする。 薬剤散布は、散布ムラのないよう丁寧に行う。 系統の異なる薬剤を組み合わせたローテーション防除を行う。 <p><防除の一例（ピーマン）></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●コルト顆粒水和剤 4,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p><防除の一例（トマト）></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p><防除の一例（ししとう）></p> <ul style="list-style-type: none"> ●チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モベントフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	すいか・メロン・きゅうり	
病虫害生理障害名	すいか	きゅうり
菌核病		
発生状況	少発生	
発生時期	5月中旬～	
発生状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 茎や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗する。 腐敗部には黒色の菌核を形成する。 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。 <ul style="list-style-type: none"> すいかでは、着果期を過ぎ、茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。 きゅうりでは現在、乾燥で花落ちが悪いため、花と果実に少発生している。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 ほ場周囲に明渠を設置するなど、排水改善に努める。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●スミレックス水和剤 <ul style="list-style-type: none"> すいか：1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内 メロン：2,000倍 収穫前日まで 3回以内 きゅうり：1,000～2,000倍 収穫前日まで 6回以内 ●ロブラール水和剤 <ul style="list-style-type: none"> すいか・メロン・きゅうり：1,000倍 収穫前日まで 4回以内 		


作物名	トマト類	
病虫害生理障害名	葉かび病の初発症状	
葉かび病		
発生状況	少発生	
発生時期	5月上旬～	
発生状況・要因		
<p>初発期の症状</p> <ul style="list-style-type: none"> 下～中位葉で葉表の葉色がスポット状に黄変している。 葉裏のカビは若干発生している。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 発生が確認されたら、可能な限り摘葉した後、薬剤散布する。 下～中位葉での発生を中心に観察する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※アフエットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。</p>		

作物名	トマト	
病虫害生理障害名	灰色かび病	
灰色かび病		
発生状況	少発生	
発生時期	5月下旬～	
発生状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 傷口や枯死した部分から侵入する。 20℃くらいで多湿のときに発生しやすい。 密植、軟弱生長、過繁茂により多発する。 朝夕の冷え込みは、本病の発生を助長する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内 ●ロブラール水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 ●カンタスドライフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	きゅうり
病虫害生理障害名	褐斑病の初期症状
病虫害名	褐斑病
発生状況	発生に注意
発生時期	6～10月
	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。 べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる特徴がある。 生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。6～10月にかけて発生する。 草勢が衰えている場合に発生、拡大が進みやすい。 ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことのあるほ場では特に注意が必要となる。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 昨年発生したほ場では、予防防除を行う。 ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 8回以内 ●シマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内 ●グッター水和剤 1,500倍 収穫前日まで 5回以内 ●プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※ダコニール1000は、プロポーズ顆粒水和剤と合わせて8回以内とする。</p>	

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	被害葉(すいか)
病虫害名	ハダニ
発生状況	少発生
発生時期	5月中～
	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。増殖すると葉全体が黄変枯死する。 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。 乾燥した天候が続いているため、今後の多発に注意する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 ハウス内外の雑草処理を行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ピラニカEW すいか・きゅうり 2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回 ●メロン 2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回 ●モメントフロアブル すいか・メロン・きゅうり 2,000倍 収穫前日まで 3回 <p>※モメントフロアブルはミツバチへの影響が懸念されるため、できる限り散布後の再放飼は控えましょう。</p>	

作物名	パセリ
病虫害生理障害名	うどんこ病
病虫害名	発生に注意
発生状況	発生に注意
発生時期	5月下旬～
	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 5月下旬に発生が確認された。 葉の表面がうっすらと白いかびに覆われる。 高温でやや乾燥した条件下で多発しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発病初期に防除する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●クムラス 500～1,000倍 安全使用基準 ー 使用回数 ー <ul style="list-style-type: none"> 少発生時：1,000倍で収穫後に散布。 中発生時：500倍で収穫後散布。1,000倍で収穫後と収穫数日前散布。 多発生時：500倍で収穫後と収穫数日前に散布。 <ul style="list-style-type: none"> 葉部は細かい切れ込みや凹凸があるため、薬斑が残りやすい。クムラス使用時は展着剤を必ず使用し、散布水量は流れ落ちない程度(10aあたり200ℓ以下)とする。 	

作物名	チンゲンサイ・みずな等
病虫害生理障害名	加里欠乏症
病虫害名	発生に注意
発生状況	発生に注意
発生時期	5月下旬～
	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 生育中期～収穫期にかけて、葉身部の先端や縁が黄化し枯死する。 下位～中位葉に発生する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 土壌分析を行い、加里の状況を把握しておく。 適切な肥培管理により、根張りを促進し、水分や養分の吸収を促進する。 発生ほ場では、硫酸加里の施用を検討する。(施用量については普及センターに問い合わせください) 	

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名	キスジノミハムシ	
発生状況	発生に注意	
発生時期	5月下旬～	
写真(左) 成虫 写真(右上) 成虫による食害		
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 本年は高温・乾燥傾向で推移しているため多発生する可能性がある。 • 7月中旬以降に被害が増大する傾向がある。 • 次世代までの日数は、約22～30日前後となる。 		
<ul style="list-style-type: none"> ●産卵期間: 20～50日 ●卵期間: 3～5日 ●幼虫期間: 10～20日 ●蛹期間: 3～15日 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 • 土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 • ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 • 忌避資材(サニーマルチ)の活用(右: 写真ハウス下部) 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回(こまつな) ●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時全面土壌混和 1回(チンゲンサイ) ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回(チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな) 		

作物名	ねぎ	
病虫害 生理障害名	べと病	
発生状況	少発生	
発生時期	5月中旬～	
写真上 黒色のピロード状のかびで覆われ		
写真左 葉の表面に淡黄色の病斑		
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 葉の表面に淡黄色の病斑が生じ、しだいに拡大して薄いクモの巣を張ったようなかびを生じる。 • 健全部との境は見分けることができない。 • のちに黄白色の病斑となり、やがて枯死する。 • 葉の表面が灰色～黒色のピロード状のかびで覆われ、紡錘形的大型病斑ができることもある。 • 本病は冷涼湿潤下で発生し、道内では8月中旬以降の気温が低下する時期に発生しやすいが、5月の一時的な低温とハウス内の多湿条件で発生したと考えられる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 発生後から薬剤散布を開始しても効果が得られにくいので、予防散布を基本とする。 • マンゼブ剤(ジマンダイセン水和剤など)を2週間間隔で3回散布すると最終散布後25日以上、防除効果が持続する。 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫14日前まで ●リドミルゴールドMZ 1,000倍 収穫30日前まで <p>※ジマンダイセン水和剤とリドミルゴールドMZの使用回数は、合わせて3回以内となるので注意する。</p>		

作物名	きく	
病虫害 生理障害名	ハモグリバエ類	
発生状況	少発生	
発生時期	5月中旬～	
葉に食痕・産卵痕が見られ、その後幼虫が孵化し食害を始める		
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 初めに葉に白い点の食痕または産卵痕が見られる(写真)。 • 孵化後、幼虫は葉の中を食害するため線状の食痕が確認できる。 • 幼虫の食痕は下葉に多い。 • ハモグリバエの種類によっては難防除の種類も存在する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 発生初期のうちに防除を徹底する。 • 葉の内部に幼虫がいるため、浸透性のある薬剤が効果的である。 • 産卵痕を見つけ次第防除をスタートする。 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタークル顆粒水溶剤 1,000～2,000倍 5回以内 ●カスケード乳剤 2,000倍 3回以内 ●カルホス乳剤 1,000倍 4回以内 		

作物名	スモモ(プルーン)	
病虫害 生理障害名	スモモヒメシクイ	
発生状況	少発生	
発生時期	5月上旬～	
ふ化後の卵		
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 成虫発生予察では5月上旬に初発が確認され、例年よりも早い。 • 例年の1回目の成虫発生のピークは6月上旬頃で、これからの発生に注意する。 • 幼虫が果実に侵入すると、肥大初期の果実では果実の着色、肥大が進んだ果実では露滴がしみ出すなどする。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 被害果は除去し、ほ場から搬出する。 • 発生を確認したら、薬剤防除を行う。 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アディオフロアブル 1,500倍 収穫7日前まで 2回以内 		

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

◆この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。気象・土壌条件作業体系から当該地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)

◆掲載されている農薬情報は、平成27年4月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□■□■□■□■□GAP手法の活用□■□■□■□■□■□■□■□■

農作業事故編 ー夏日～猛暑日が予測される時は「熱中症」に注意!ー

★ 今後は、気温の上昇が予想されます。
作物の管理だけではなく、作業者の体調管理にも気を配りましょう。